

スタッフ紹介

* 氏名、現職、専門分野、担当研究事業、および 2011 年度の研究業績について紹介しています。今年度新任のスタッフには、研究紹介および 2011 年度以前の研究業績についても掲載しています。

井上 順孝 所長・教授 宗教学・宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

[単行本]

- ・『本当にわかる宗教学』日本実業出版社、2011 年 4 月。
- ・『図解雑学宗教 最新版』ナツメ社、2011 年 5 月。
- ・『神道一日本人の原点を知る』マガジンハウス、2011 年 9 月。
- ・『情報時代のオウム真理教』（編集責任、宗教情報リサーチセンター編）春秋社、2011 年 7 月。

[論文]

- ・「グローバル化・情報化時代における宗教教育の新しい認知フレーム」『宗教研究』369（85-2）、2011 年 9 月。
- ・「宗教文化士制度発足への歩み」『國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報第 4 号』2011（平成 23 年）9 月 30 日、37～43 頁。
- ・「グローバル化時代の近代新宗教とポスト近代新宗教」中牧弘允・ウエンディ・スミス編『グローバル化するアジア系宗教』東方出版、2012 年 1 月。
- ・「教育における宗教情報リテラシー—「宗教文化士」制度発足の背景」『宗務時報』113、文化庁宗務課、2012 年 3 月。
- ・「映画・ビデオ・DVD」『宗教と現代がわかる本 2012』、平凡社、2012 年 3 月。
- ・“Media and New Religious Movements in Japan, *Journal of Religion in Japan* 1, Brill、2012 年。

[その他]

- ・（講演）ドイツ・ライプチヒ大学における講演「Media and New Religious Movements in Japan」、2011 年 7 月。
- ・（学会発表）・日本宗教学会第 70 回学術大会（9 月、関西学院大学）での発表「自然災異の神道的表象の認知宗教学的アプローチの試み」

斉藤 こずゑ 教授 教育心理学、発達心理学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

[論文]

- ・「第 18 章 発達研究における倫理」日本発達心理学会 [編] 岩立志津夫・西野泰広 [責任編集]『発達科学ハンドブックシリーズ 2 研究法と尺度』新曜社、2011 年 11 月

[解説]

- ・「心理学領域の資格をめぐる問題」國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所『日本文化研究所年報』第 4 号、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所発行、2011 年 9 月

[学会発表]

- ・「育児ブログにおける映像とブロガーの発達観」日本心理学会第 75 回大会発表論文、2011 年 9 月
- ・「発達ナラティブにおける表象媒体と場の変容の効果」日本発達心理学会第 23 回大会、2012 年 3 月

遠藤潤 准教授 宗教学・日本宗教史

担当研究事業 「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築」

【論文】

- ・「平田国学における〈靈的なもの〉—靈魂とコスモロジーの近代—」鶴岡賀雄・深澤英隆編『スピリチュアリティの宗教史』下、リトン、2012年1月

【口頭発表】

- ・「近世靈山における神仏関係と組織」シンポジウム「神仏関係史再考—カミを祀る担い手をめぐって—」（神道宗教学会第65回学術大会、國學院大學）2011年12月

黒崎浩行 准教授 情報化と宗教、現代社会と神社神道

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

【論文】

- ・「都市生活における共存と神社の関わり—東京「大塚まちの灯り」の試み」國學院大學研究開発推進センター編、古沢広祐責任編集『共存学：文化・社会の多様性』弘文堂、2012年、89-105。

【口頭発表】

- ・「被災地支援・復興と神社の公共的次元」、パネル「東日本大震災と神道—被災地支援と復興を探る」神道宗教学会第65回学術大会、國學院大學、2011年12月4日。

【その他】

- ・（書評）板井正斉著『ささえあいの神道文化』『宗教研究』370（2011）：117-122。

平藤喜久子 准教授 神話学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

【論文】

- ・「宗教文化の授業研究会の試み」『國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報』第4号 2011年9月。

【口頭発表】

- ・「宗教文化の授業とデジタル映像—その可能性と課題—」國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所国際研究フォーラム「デジタル映像時代の宗教文化教育—開かれたネットワークによる取り組み」國學院大學学術メディアセンター、2011年10月16日。
- ・「神話学の研究史における岡正雄の位置の再検討」国際シンポジウム「岡正雄—日本民族学の草分け」法政大学国際日本学研究所、2012年3月11日。

【その他】

- ・（監修）上大岡トメ+ふくもの隊（著）『「開運！神社さんぽ」古事記でめぐるとご利益満点の旅』泰文堂、2011年12月。
- ・（監修）「記紀神話の舞台を歩く」『一個人 古事記入門』2012年4月号、2012年2月発行。
- ・（講演）「日本の神話と昔話」大倉精神文化研究所・横浜市大倉山記念館共催、大倉山講演会、横浜市大倉山記念館、2011年7月16日。

ノルマン・ヘイヴンズ (HAVENS, Norman) 准教授 日本宗教史、日本の民間信仰
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

松本久史 准教授 近世・近代の国学・神道史

担当研究事業 「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築」

[著書]

- ・ (分担執筆 第3章、第7章) 阪本是丸・石井研士編『プレステップ神道学』(弘文堂)、2011年4月

星野靖二 助教 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

[単行本]

- ・ 『近代日本の宗教概念——宗教者の言葉と近代』(有志舎、2012年2月)

[論文]

- ・ 『『来世之有無』について——新仏教徒同志会における宗教観と来世』(鶴岡賀雄・深澤英隆編『スピリチュアリティの宗教史・下巻』リトン、2012年1月)

[学会発表・講演・シンポジウムなど]

- ・ ”’Rational Religion’ and the Shin Bukkyo [New Buddhism] Movement in Late Meiji Japan” in the panel ”Buddhist Constructions of ’Rational Religion’ across East Asia ” organized by Michel Mohr, at the XVIth Congress of the International Association of Buddhist Studies, held at Dharma Drum Buddhist College in Jinshan, Republic of China, 2011年6月24日

塚田穂高 助教 宗教社会学、近現代日本の宗教運動

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

[論文]

- ・ (共著)「現代日本「宗教」情報の氾濫—新宗教・パワースポット・葬儀・仏像に関する情報ブームに注目して—(国内の宗教動向)」(財団法人国際宗教研究所編『現代宗教2011』、秋山書店)、2011年5月
- ・ 「オウム真理教が社会に向けて刊行した書籍」(宗教情報リサーチセンター編・井上順孝責任編集『情報時代のオウム真理教』、春秋社)、2011年7月
- ・ 「事件前の「オウム論」書籍と学術研究—ジャーナリズムから宗教研究まで—」(宗教情報リサーチセンター編・井上順孝責任編集『情報時代のオウム真理教』、春秋社)、2011年7月
- ・ 「真理党の運動展開と活動内容」(宗教情報リサーチセンター編・井上順孝責任編集『情報時代のオウム真理教』、春秋社)、2011年7月

[その他]

- ・ (共著)“Religious Issues in Japan 2010: A Deluge of “Religious” Information on New Religions, Power Spots, Funeral Services, and Buddhist Statues”, (translation by Kinoshita Tomoko) in *Bulletin of the Nanzan Institute for Religion & Culture* Nr.35 (2011), 2011年6月
- ・ 「書評 櫻井義秀・中西尋子著『統一教会—日本宣教の戦略と韓日祝福—』」(『宗教と社会』17、「宗教と社会」学会)、2011年6月
- ・ 「報告1.日本の宗教社会学、宗社研／オウム事件以降—「宗教と社会」学会と会員は何をしてきたか—(テーマセッション報告「現代社会における宗教社会学の可能性—「世俗化論」以後の課題と応答—)」

(『宗教と社会』17、「宗教と社会」学会、2011年6月)

- ・(共著)「コメントへのリプライ・質疑応答とセッションのまとめ(テーマセッション報告「現代社会における宗教社会学の可能性—「世俗化論」以後の課題と応答—)」(『宗教と社会』17、「宗教と社会」学会、2011年6月)

市川 収 客員研究員 惑星物質科学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

カール・フレーレ (FREIRE, Carl) 客員研究員 近代の日本史(特に社会史・思想史)

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

市田 雅崇 PD研究員 民俗宗教研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

[論文]

- ・「新田義貞をめぐる歴史叙述と顕彰運動—新田神社の別格官幣社昇格運動を中心として—」、由谷裕哉編『郷土再考—新たな郷土研究を目指して』、角川学芸出版、2012.2
- ・「地域の文化資源と信仰の道—峨山道を事例として—」、『山岳修験』vol.49、日本山岳修験学会、2012年3月

李和珍 PD研究員 宗教社会学、日韓の新宗教教団の比較研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

[論文]

- ・「圓佛教の現況と研究の動向—宗教社会学的視点から—」(國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報)4、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所)、2011年9月

ヤニス・ガイタニディス (GAITANIDIS, Ioannis) PD研究員 医療人類学・宗教社会学・日本学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

[論文]

- ・「At the forefront of a 'spiritual business': independent professional spiritual therapists in Japan」、『Japan Forum』(23/2)、pp.185-206、2011年8月。

[口頭発表]

- ・「The changing meaning and role of 'community' in Japanese spiritual therapy circles」、Anthropology of Japan in Japan Spring Workshop(金沢大学)、2011年4月23日。
- ・「スピリチュアル・ビジネスの定量分析」、『宗教と社会』学会第19回学術大会(北海道大学)、2011年6月11日。
- ・「Researching the supirichuaru in Japan」、マーク・マリンス教授の研究会(上智大学)、2012年12月1日。

加藤久子 PD 研究員 政治と宗教

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

【研究紹介】

研究対象は、20世紀後半から現在にいたる政治変動・社会変動（民主化や近代化）と宗教の関係。政治学と社会学の関連領域を横断する学際的アプローチを取り、特に、社会主義体制下で自律的な活動を展開したポーランドのカトリック教会と民主化の関係について研究している。研究の特徴は、国家と教会の間での激しい対立ではなく、妥協や合意形成のプロセスに注目する点。

また、戦後復興期の宗教・文化状況や、第二次世界大戦にまつわる戦争遺産の保存・観光資源化にも関心を持っている。

【2010年度までの主な研究業績】

- ・「レーニン製鉄所と十字架—社会主義ポーランドにおける政治と宗教—」『ロシア・東欧研究』第36号、2008年、61-71頁
- ・「ポーランドにおける社会主義政権の『終焉のはじまり』—カトリック教会をめぐる政治性の問題—」国際宗教研究所編『現代宗教2005』東京堂出版、2005年、107-129頁
- ・「社会主義政権下ポーランドにおけるカトリック教会—「三月事件」（1968年）に対する教会の見解に着目して—」『宗教と社会』第10号、2004年、71-92頁

小林威朗 PD 研究員 近世・近代の国学・神道史

担当研究事業「『國學院大學国学研究プラットフォーム』の構築」

【口頭発表】

- ・「久保季茲の思想—明治期を中心に—」（神道宗教学会第65回学術大会、國學院大學）、2011年12月

今井信治 研究補助員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

【論文】

- ・「教材開発の現状報告」（『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』第4号、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所）、2011年9月

小田真裕 研究補助員 日本近世史

担当研究事業「『國學院大學国学研究プラットフォーム』の構築」

【論文】

- ・「幕末筑前における平田国学」（『七隈史学』14）、2012年3月

【口頭発表】

- ・「加賀藩国学者石黒千尋の対外認識—「来舶神旨」を中心に—」（近世史研究会10月例会、名古屋大学）、2011年10月
- ・「近世後期における関東農村の虚無僧取締り—武州八條領を中心に—」（千葉歴史学会近世史部会3月例会、千葉大学）、2012年3月

武田幸也 研究補助員 近代神道史・近代神道教化と国学

担当研究事業「『國學院大學国学研究プラットフォーム』の構築」

【研究紹介】

近代の神道史・国学を専攻している。特に近代神道における「教化」とは何か、という点に関心を持っている。具体的には、近代神道史の展開を踏まえながら、神宮の教化活動の一環として設立された神宮教院、その後継団体である神宮教・神宮奉斎会の活動を、通史的に検討し、そこに関わった国学者・神道人の思想や教化観を研究している。人物としては、浦田長民や田中頼庸、藤岡好古、篠田時化雄といった人々である。彼らは近世・近代の国学と深い関わりを有する人々であり、国学の営みが、神道による教化活動という課題を有していた人々にどのように受容されていたのか、という問題を検討している。

【論文】

- ・「神宮教の組織と活動に関する基礎的研究」（『國學院大學伝統文化リサーチセンター研究紀要』第4号、國學院大學）、2012年3月

【口頭発表】

- ・「浦田長民の神道教説」（神道宗教学会第65回学術大会、國學院大學）、2011年12月

【2010年度までの主な業績】

- ・「明治初期神宮教院における教化と教説—教説書の検討を中心に—」（『國學院大學伝統文化リサーチセンター研究紀要』第3号、國學院大學）、2011年3月
- ・「田中頼庸の教化思想とその神道論」（『國學院大學研究開発推進センター研究紀要』第3号）、2010年3月
- ・「明治初年神宮教院出版の教説書について」（神道宗教学会第64回学術大会、國學院大學）、2010年12月

天田顕徳 宗教社会学、民俗宗教研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

【研究紹介】

現代の日本における伝統宗教のありようについて、宗教社会学的な観点より考察をおこなっている。現在はとりわけ「霊場の観光地化」に関心を抱いており、かつてその霊験が「日本第一」と称され、現在は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部としても知られる和歌山県・熊野三山の近年の動向に注目している。フィールドに還元できる宗教学を目指し、観光学や民俗学をその視野に収めつつ、伝統的な社寺や祭りが関わっておこなわれる地域興しや、文化遺産のマネジメントなどに関して事例調査をおこなっている。

【論文】

- ・「本来の祭の行方—和歌山県新宮市「お燈祭」に関わる言説の競合をめぐって—」（由谷裕哉編『郷土再考』角川学芸出版、2012年）。

【口頭発表】

- ・「熊野」に投影されるもの—世界遺産・熊野古道「中辺路ルート完全踏破」モニターツアーを事例として—「宗教と社会」学会
- ・「現代の聖地にみる「癒やし」と「蘇り」—熊野セラピーを事例に—」日本宗教学会
- ・「彼岸としての熊野、此岸としての熊野—世界遺産登録と熊野にむけられるまなざしの変化—」国際熊野学会

【学会レジュメ】

- ・「現代の聖地にみる「癒やし」と「蘇り」—熊野セラピーを事例に—」（『宗教研究』85（4）、2012年）。
- ・天田顕徳「現代日本の霊場における聖性の位相」（駒澤宗教学研究会『宗教学論集』、2012年）。

一戸 渉 共同研究員 日本近世文学

担当研究事業「『國學院大學国学研究プラットフォーム』の構築」

【単行本】

- ・『上田秋成の時代—上方和学研究—』（べりかん社）2012年1月

【論文】

- ・「『自像笥記』異文—秋成と自伝—」（『上方文藝研究』第8号）、2011年6月
- ・「羽倉風のゆくえ」（『朱』第55号）、2011年12月

【口頭発表】

- ・「周縁から眺める—上田秋成の門人研究—」（2011年度金沢大学国語国文学会）、2011年10月

【その他】

- ・「板本を写すということ—『林の秋ぬきがき』『かきねの小草抜書』瞥見—」（『お舟津さん』第14号）
2011年12月

マシュー・チョジック (CHOZICK, Matthew) 共同研究員 カルチュラルスタディーズ・比較文化

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

イグナシオ・キロス (QUIROS, Enrique Ignacio Luis) 共同研究員 上代の国学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

小堀 馨子 共同研究員 古代ローマ宗教研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

齋藤 知明 共同研究員 宗教学、宗教教育史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

エリック・シッケタンツ (SCHICKETANTZ, Erik) 共同研究員 宗教史学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

高橋 典史 共同研究員 宗教社会学、日系宗教の海外布教研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

ジャン＝ミシェル・ビュテル 共同研究員 日本文化研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

村上 晶 共同研究員 宗教社会学、シャーマニズム研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

【研究紹介】

専門は宗教社会学であり、日本の巫者を対象として研究を行っている。巫者や巫者伝統の変容を記述することを通して、人々が神や霊といった超自然的な存在や世界とどのように関わってきたのか、また現代社会においてそうした態度はどのような変化の中にあるのかという点について考察してきた。今後は、かつての巫者伝統が消失した茨城と、形を変えながらも存続している東北地方、そして「拝み屋」などが活躍する都市という3つの異なるフィールドの調査を進め、そこから得られた知見を比較・検証していくことで、巫者研究と現代宗教論を結び付けた新たな研究視座の構築を目指していく。

【論文】

- ・「巫者の鎖をたどって—現代の巫者に関する一考察—」（『現代宗教 2011』、秋山書店）、2011年5月
- ・「茨城県の巫者について—文書と口承からみるワカサマの姿—」（『宗教学・比較思想学論集』第13号、筑波大学宗教学・比較思想学研究会）、2012年3月

【口頭発表】

- ・「宗教体験の語りの諸相とその現代的意義」（日本宗教学会第70回学術大会、関西学院大学）、2011年9月

(2010年度までの主な研究業績)

【論文】

- ・「都市の「憑霊」体験—「カミダーリィ」の語の使用をめぐる—」（『哲学・思想論叢』第29号、筑波大学哲学・思想学会）、2011年1月
- ・「日本におけるシャーマニズム研究の展開—ユタ研究における成巫過程への着目とその背景—」（『宗教学・比較思想学論集』第11号、筑波大学宗教学・比較思想学研究会）、2010年3月

【口頭発表】

- ・「都市「霊能者」の自己物語に見る現代宗教の位相」（日本宗教学会第69回学術大会、東洋大学）、2010年9月

三ツ松 誠 共同研究員 国学思想史

担当研究事業「『國學院大學国学研究プラットフォーム』の構築」

【論文】

- ・「紀州藩における国学者の存在形態—参沢明の例から—」（『論集きんせい』第33号、近世史研究会）、2011年5月
- ・「『古史伝』の索引と気吹舎門人たち」（『清内路—歴史と文化—』第3号、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部日本史学研究室）、2012年3月

【口頭発表】

- ・「国家神道と近世史研究の現在」（近世史研究会例会、文京区湯島地域活動センター）、2011年6月
- ・「前橋神女と平田門人たち」（日本宗教学会第70回学術大会、関西学院大学）、2011年9月

【その他】

- ・（新刊紹介）「須田努編『逸脱する百姓—菅野八郎からみる19世紀の社会—』」（『史学雑誌』第120編第6号、財団法人史学会）、2011年6月
- ・「【書評】有富純也著『日本古代国家と支配理念』」（『東京大学日本史学研究室紀要』第16号、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部日本史学研究室）、2012年3月

山梨有希子 共同研究員 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

土屋博 客員教授 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

ナカイ・ケイト (NAKAI, Kate W.) 客員教授 日本思想史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

林淳 客員教授 日本宗教史

担当研究事業「『國學院大學国学研究プラットフォーム』の構築」

星野英紀 客員教授 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」

山中弘 客員教授 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」